令和8年度　大田区立館山さざなみ学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　　　令和8年7月2日

本校は、千葉県館山市に位置する全寄宿舎制の区立病弱特別支援学校である。区内小学校3年生から6年生までの児童が家庭を離れ、ぜん息、肥満、偏食、病虚弱の健康課題を克服するために、寄宿舎生活の下で生活・学習に取り組んでいる。教育課程は各教科の年間授業時数を含め通常校と同様であるが、特別支援学校であるため、加えて年間35時間の健康課題克服のための「自立活動」の時間を設定している。児童の指導においては、学校と寄宿舎が連携の下に、少人数制の利点を活かした「学力の定着と向上」、集団生活の中で互いを認め合いながら自己肯定感や自信を培う「生活指導の充実」に取り組んでいる。また、本校が所在する館山市神戸地区は、学校設置者であり保護者が生活している「大田区」とは異なる環境下にあるが、地元近隣の小・中学校も含め、地域の方々は非常に協力的で、本校の教育活動に理解を示していただいている。大田区随一の病弱特別支援学校が果たすべき役割を踏まえた上で、学校と地域、そして家庭間でより一層の連携強化を実現し、学校教育目標の達成を図っていく。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
個別目標１ 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末児童アンケートの「タブレットや電子黒板などのICT機器を使う授業では、勉強が分かるようになった。」という質問項目で、 成果指標 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			C:			C		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						D:			D		
個別目標２ 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末児童アンケートの「外国語活動や英語活動などでALTの先生と一緒に楽しく学ぶことができている。」という質問項目で、 成果指標 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			C:			C		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						D:			D		
個別目標３ 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末児童アンケートの「前より運動（体を動かすこと）が好きになった。」という質問項目で、 成果指標 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない 回答者数　　／　名 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			C:			C		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		⑤年間を通して持久走に取り組み、体力の向上を図る。	4:全教員で行った。			D:			D		
			3:80%以上の教員で行った。								
			2:60%以上の教員で行った。								
			1:60%未満であった。								
個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末児童アンケートの「前より学習が分かるようになった。」という質問項目で、 成果指標 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。			C:			C		
			3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。								
			1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。								
						D:			D		
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。		年度末保護者アンケートで「学校は、子供たち一人一人の良さを認め、伸ばす指導をしているか。」という質問項目で、 A:とても思う B:少し思う C:あまり思わない D:まったく思わない E:無回答 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が95%以上 3:肯定的評価が90%以上 2:肯定的評価が80%以上 1:肯定的評価が80%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満の教員が回答した。								
			2:60%以上80%未満の教員が回答した。								
			1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。			C:			C		
			3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。								
			2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。								
			1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。								
						D:			D		
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末保護者アンケートで、「学校は、避難訓練などを通して、安全に関する教育を適切に実施しているか。」という質問項目で、 成果指標 4:とても思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:まったく思わない 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						C:			C		
						D:			D		
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		年度末保護者アンケートで、「学校は、情報公開することができているか。」という質問項目で、 成果指標 4:とても思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:まったく思わない 回答者数　　／　名 成果評価 4:肯定的評価が90%以上 3:肯定的評価が80%以上 2:肯定的評価が70%以上 1:肯定的評価が70%未満	A:			A		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②自然や地域の人材を生かした、体験活動を取り入れた授業や行事を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			B:			B		
			3:80%以上の教員が回答した。								
			2:60%以上の教員が回答した。								
			1:60%未満であった。								
						C:			C		
						D:			D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の４点について、評価した人数を記載する。